2015 年 10 月 23 日（金）～ 25 日（日）

サントリー労働組合様
海士五感塾　報告書

学びのテーマ「自ら考動をおこす」

もくじ

01 海士町とは 4 → 5

02 海士五感塾の目的 6

03 学びのテーマ・方針 6

04 スケジュール 7 → 9

05 ラーニングジャーニー先 10

06 地域の取り組み受入先 11

07 プログラムの様子 12 → 24

08 「人間力」自己チェック 25

09 五感塾参加者の感想 26 → 33

海のサムライと書いて『あま』と読みます。

日本海に浮かぶ隠岐諸島のひとつ、

中ノ島が島根県隠岐郡『海士町』です。

01

海士町とは

島根県の北 60 キロ、日本海に浮かぶ隠岐諸島の中の一つの島であり町である。後鳥羽上皇がご配流になられた遠流の島としても有名で、神楽や俳句などの歴史文化や伝統が残っており、また島すべてが国立公園に指定されるほどの自然豊かな島である。

現在人口は 2373 人（2013 年 10 月末現在）。年間に生まれる子どもの数約 10 人。人口の 4 割が 65 歳以上という超少子高齢化の過疎の町。

人口の流出と財政破綻の危機の中、独自の行財政改革と産業創出によって、今や日本で最も注目される島の一つとなる。

町長は給与 50％カット、課長級は 30％カット。公務員の給与水準としては全国最低となる（2005 年度）。その資金を元手に最新の冷凍技術ＣＡＳを導入。海産物のブランド化により全国の食卓をはじめ、海外へも展開する。

産業振興による雇用拡大や島外との積極的な交流により、2004 年から 2012 年の 9 年間には 294 世帯 437 人の I ターン（移住者）、204 人の U ターン（帰郷者）が生まれ、島の全人口の 20% を占める。

新しい挑戦をしたいと思う若者たちの集う島となっており、まちおこしのモデルとして全国の自治体や国、研究機関などからの注目を集めている。

02

海士五感塾の目的

五感塾は仕事力の向上の元になる「人間力」を磨く学習方法です。
知識の詰め込みではなく、「気づく力」「感じる力」を高めるために、
その地域に伝わる伝統文化やその地域のために働く志の高い人にふれていきます。
五感を高め、気づく力や感じる力に磨きをかけることによって、
学び上手になっていきます。そうすることで仕事力の向上にもつながります。

03

学びのテーマ・方針

今回の海士五感塾の学びのテーマは、「自ら考動をおこす」です。

海士五感塾は
以下 3 点の学びの機会を提供いたします。その中で何を学び、
その学びを何に活かしていくかは、皆さん次第と考えております。

1）学びの仲間づくり

2）【考】自発的・主体的に行動するなかで、「自ら考動を起こす」ヒントを学ぶ

3）【動】学びを生かし、実際に地域貢献に携わる

04

スケジュール

10 月 23 日（金）

【学びの仲間づくり】

時間	内容	場所	ねらい
15:20	集合	七類港	
15:45	高速艇出航	七類港	
17:30	到着	菱浦港	
18:00	オリエンテーション	村上家	自分が五感塾で伸ばしたい人間力はなにか 見つめる。
19:00	チェックイン・夕食	但馬屋	・仲間の多様性を感じる。 ・うちとけあい仲良くなる。
21:30	入浴	但馬屋	
23:00	就寝	但馬屋	

10 月 24 日（土）

【『考』自発的・主体的に行動するなかで、「自ら考動を起こす」ヒントを学ぶ】

時間	内容	場所	研修項目
07:30	起床／朝食	但馬屋	
08:30	町内散策	海士町内	・大地の成り立ち、人の営みを感じる。 ・五感を解放する。
09:00	海士町の取り組み紹介	村上家	海士の取り組みを理解する。考動をおこしている海士町のリーダーの志に触れ、心に揺さぶりを起こす。
11:00	町内散策		
12:00	昼食	隠岐牛店	
13:00	ラーニングジャーニー導入	交流施設	学びのマインドセット。
14:00	ラーニングジャーニー	海士町内	「島内の各所に分かれ、人と出会い、生き方や暮らしに触れる。 ○島前高校魅力化プロジェクト　秋元悠史さん ○農家・サンライズうづか代表　向山剛之さん ○陶芸家　勇木史記さん
15:30	終了、休憩、入浴	海士町内	休息の時間。
17:00	ラーニングジャーニー振り返り	村上家	ラーニングジャーニーで学んだことを消化する。
18:00	深める時間	村上家	ここまでで得た気付きを深める。
19:00	夕食	ラディーチェ	ラーニングジャーニーの行き先の人との交流。
21:45	2 次会	スナック三休	話し足りない部分をぶつけて語りあう。
23:00	2 次会、終了	但馬屋	
23:30	就寝	但馬屋	

10 月 25 日（日）

【『動』学びを生かし、実際に地域貢献に携わる】

時間	内容	場所	研修項目
07:00	起床／朝食	但馬屋	
08:00	実践のオリエンテーション	海士町内	・地域の取り組み（課題）を知る。 ・自分が何に参画するかを決める。
08:30	地域の取り組み（課題）に携わる	海士町内	島の人の現場に訪れ、その人の課題に共に挑戦する ○さくらの家　本多美智子さん 就労継続支援 B 型事業所「さくらの家」で、島のハーブティー「ふくぎ茶」の生産をされています。 →「さくらの家のメンバーが楽しめる」かつ「長く愛される商品づくり」をテーマに、生産現場で考える時間を予定しています。 ○脇谷商店　脇谷誠さん 島の玄関口である集落「菱浦」で、商店を営まれています。 →「離島における商店の役割」に触れながら、「愛される商店づくり」を商店の現場で考える時間を予定しています。 ○集落支援員　万代忍さん 役場で働きながら、集落の活性化を担う「集落支援員」をされています。 →自分の生まれた保々見集落を、集落の人たちと一緒にめぐりながら、「観光客の方に楽しんでいただく為のしかけ」を考える時間を予定しています。
11:30	各班で何をしたのかシェア	海士町内	1 人ずつの学びの落とし込み。
13:00	振り返り	海士町内	学んだことを振りかえり、 日常にどのように活かすのか思考する。
15:15	フェリーおき　出航	菱浦港	
18:05	七類着	七類港	

05

ラーニングジャーニー先

【島前高校魅力化プロジェクト　秋元 悠史さん】

海士町 高校魅力化プロジェクトスタッフ、隠岐國学習センター 総務・経理スタッフ。
秋田出身、秋田大好き。大学卒業後、都内のソフトウェアベンダーに就職した後、修行の為、海士町へ移住。学習センターでは、中核を担う立場で活躍している。

【サンライズうづか・代表　向山 剛之さん】

海士町生まれ。10 年以上前からアイガモ農法などの無農薬農法に取り組み、海士町の農業を仲間と守り、後継者育成や農地の荒廃を防ぐ活動を行うために「農事組合法人サンライズうづか」を設立。「子供たちに安全な食べ物をたべさせてあげたい」という気持ちで農業を営んでいる。

【陶芸家　勇木 史記さん】

広島県生まれ。奈良教育大学大学院教育学研究科（修士課程）美術教育専攻美術専修を修了後、陶芸家になることを決意。2008 年より海士町にて「隠岐窯」を構え、陶芸家として制作を続けている。
技術ではなく、生き方として、やきものに日々真摯に挑んでる。

06

地域の取り組み受入先

【就労継続支援Ｂ型事業所「さくらの家」・所長 本多 美智子さん】

就労継続支援Ｂ型事業所（さくらの家）所長。
みんなが楽しく通えるさくらの家を運営しながら、『美味しんぼ』にも載った島のハーブティー「ふくぎ茶」の生産に日々奔走されています。

【脇谷商店　脇谷 誠さん】

国会議員秘書を経て、海士町へＵターン。
利潤の追求だけではない、「離島における商店の役割」を考えながら商店を営まれています。
島根県商工会青年部連合会の理事も務められています。

【集落支援員　万代 忍さん】

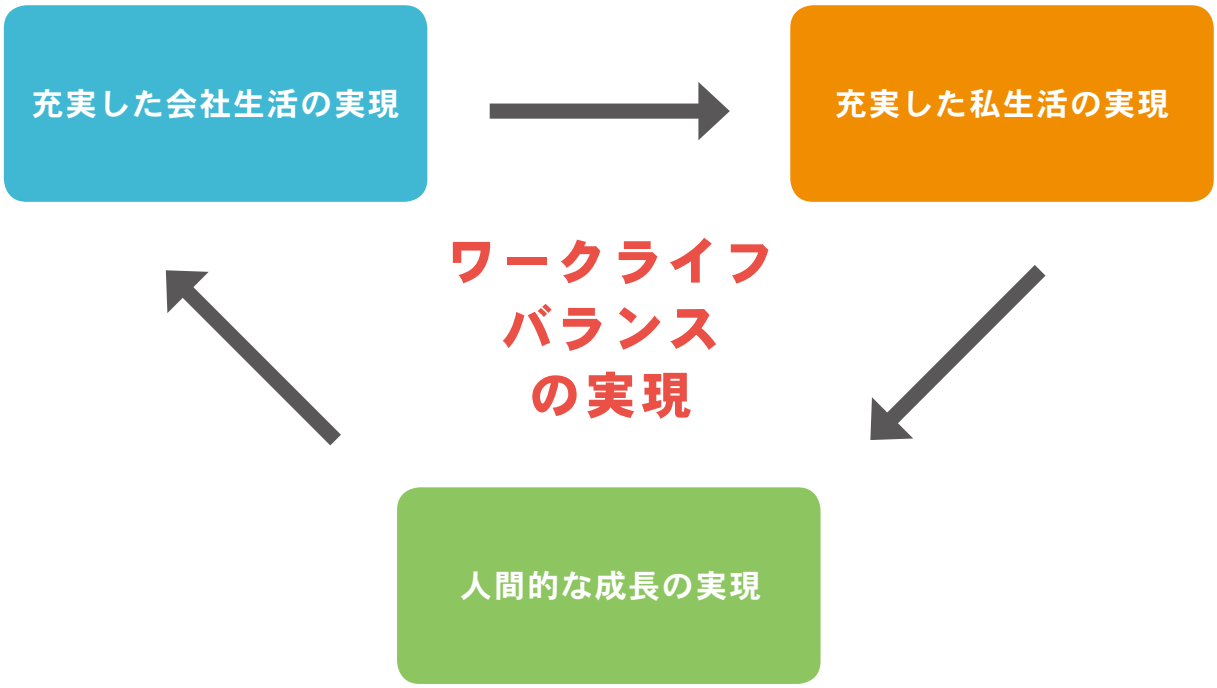
海士町保々見地区出身の集落支援員。
集落支援員として自分の生まれた保々見集落の活性化に貢献したいと、“地域の声”を大切に積極的に活動されています。
細やかな気配りと、明るい人柄で移住したばかりのＩターンからも頼られるお姉さん的存在です。

07

プログラムの様子

【今回の海士五感塾のテーマ説明】

サントリー労働組合では、ワーク・ライフ・バランスの実現を目指して、以下の図のように、３つのサイクルを回していくことを目指しています。



会社生活と私生活を充実させるとともに、個人生活の時間を活用し、地域･社会等の様々な価値観に触れて人間的に成長することで、そこで得た価値観の広がりや創造力を、更なる会社生活や私生活の充実に活かしていきます。

「海士五感塾」のプロセスでは人間的に成長するために様々な価値観に触れる時間、そして、日常から離れ、普段の仕事や普段の生活を俯瞰視し、参加者の方々が、自分が今歩いている道のりを見つめなおす時間を設けております。

そして、充実した会社生活・私生活の実現につながるために、次のような力を磨いて頂ける時間となるように、「自ら考動をおこす」というテーマを設定しています。

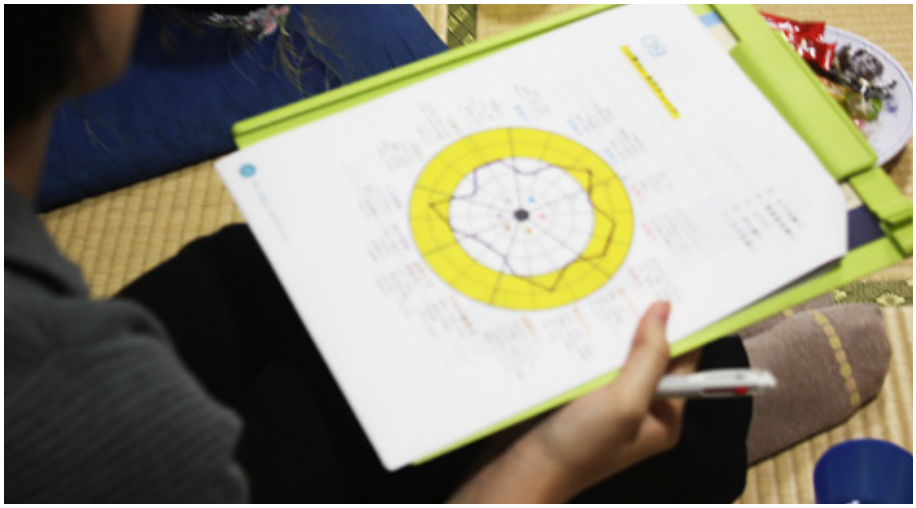
・新たな一歩を踏み出し、「考動」をおこす。

・自分が今歩いている道のりを見つめなおし、未来を描く

・互いを理解し、周りを巻き込んで、未来を切り開く

１日目【学びの仲間づくり】

島に到着、オリエンテーション



今回は、サントリー労働組合のメンバー、及びサントリーグループ労協から、総計 11 名にご参加頂きました。

１日目は、海士五感塾の心構えをし、参加者同士学びの仲間となる為の日です。
オリエンテーションでは、自己紹介、五感塾のテーマ、学びのモデル、２泊３日のスケジュールをお伝えしました。
また、人間力マップを用い、人間力の自己評価を行いました。この五感塾で自分のテーマとしたい人間力を選び、発表し合いました。

交流会

自給自足のお宿「但馬屋」で、夕食交流会を開催しました。
女将さん達が育てた野菜や、漁をして獲った魚など、島の幸を堪能しました。

2日目【『考』自発的・主体的に行動するなかで、「自ら考動を起こす」ヒントを学ぶ】

2日目は、島の師匠たちや、海士町の各現場で活動する人たちとの対話を通じ、
自ら考動をおこす上で必要なヒントを探る日です。

朝食を食べた後、体調チェックをし、出発しました。

海士町の取り組み説明

会場を村上家に移し、海士町の取り組み紹介を行いました。
巡の環代表阿部による紹介の後、海士町地産地商課の大江課長にお越しいただき、
挑戦し続ける町、海士町の原動力を探っていきました。

島内めぐり、昼食

巡の環代表阿部と、大江課長とのお話の後、海士町をぐるっと見て回り、大地の成り立ちから人の営みがあることを体感する時間をとりました。

昼食は「幻の黒毛和牛」隠岐牛の焼肉定食です。
特製のタレやわさび醤油、海士乃塩をつけて、それぞれ堪能しました。

ラーニングジャーニー

午後の時間は、参加者の関心やテーマに基づき、自ら行き先を選び、訪ねる「ラーニングジャーニー」の時間です。
まず、白い砂浜が広がるレインボービーチで、行き先決めを行いました。

【島前高校魅力化プロジェクト・
秋元 悠史さんを訪ねる旅】

公営塾として運営される隠岐國学習センターの総務・経理スタッフである秋元悠史さんにお話を伺いました。
まずは、2015年4月に完成したばかりの新校舎内を見学。その後、秋元さんがIターンしてきた理由や将来について、生徒数倍増までの島前高校魅力化プロジェクトの発展などについて聞かせていただきました。
最後には、高校生のキャリア教育と、会社でのキャリア教育の話はどちらもつながるものがある、どちらも、折れずに夢も軌道修正をしていく力が必要だという気づきをもつことができました。

【サンライズうづか代表・
向山 剛之さんを訪ねる旅】

10年以上前からアイガモ農法などの無農薬農法に取り組み、また、ふるさとを守るために農事組合法人サンライズうづかを設立し、活躍されている向山さん。その仕事場にお邪魔しました。

ミツバチが舞うイチゴ栽培中のビニールハウスや、精米機など大型の機械が並ぶ農機具小屋を見せてもらった後、お話を伺っていきました。

故郷を守る、という気持ちや、色々な農法を試してみる好奇心など、考動をおこしつづける向山さんの心に触れることができた時間となりました。

【陶芸家・勇木 史記さんを訪ねる旅】

島で陶芸家として暮らす勇木史記さんを訪ねました。まず、工房にお邪魔し、ろくろを回すところを見せてくださいました。息を呑みながら、その真剣な様子を見守りました。

その後、陶芸家として土と向き合う日々を送る勇木さんの暮らしから、自ら考動をおこす上で必要なことを探っていきました。「まず、考える気になるか、考えたくなるか、が考動をおこすきっかけとなる」「壁にあたって、自分が何をしたかったのか原点に帰る」「つらくなったとしたら、更にもう一歩踏み込んでみる」といった、勇木さんのやきものに対する姿勢に触れることができた時間となりました。

夕食交流会

ラーニングジャーニーや、翌日の「地域の課題に携わる」時間に登場くださる方を交え、夕食交流会を開催しました。

3日目【『動』学びを生かし、実際に地域貢献に携わる】

【さくらの家・本多美智子さん】

NPO法人だんだんが運営するさくらの家は、島内唯一の就労継続支援事業所(B型)です。さくらの家の看板商品がクロモジを使った島のハーブティー・ふくぎ茶です。

所長の本多さんにさくらの家のご案内をいただいた後、ふくぎ茶を飲みながら、さくらの家が抱える課題をいくつかお話いただきました。

その中から、

・ふくぎ茶のブランドイメージを、よりはっきり伝えるためのキャッチフレーズを考える

・顧客との関係をより深めるための施策を考える

という二つの課題解決を全員で考えました。

キャッチフレーズは『島の風香る』『海と山のある島から』・・・などがでました。顧客との関係を深めるためのアイデアとしては、商品発送の際、クロモジの木を一緒に送り、その豊かな香りを楽しんでもらうといったものがでました。

【集落支援員・万代忍さん】

集落支援員の万代さんは、自分の生まれた保々見集落に、もっと多くの方に訪れてほしいと考えています。

その「観光客の方に楽しんでいただく為のしかけ」を集落の人たちと一緒に歩きながら考える時間をとりました。

保々見は、名水 100 選にも選ばれた湧水「天川の水」や、その湧水が湾に流れ込み育つ「いわがき春香」の養殖場、綺麗な海水を、濃縮し煮詰め天日干しされてできる「海士乃塩」の工場がある地区です。しかし、視察のお客さんなどは、バスやタクシーで一部だけ見て帰ってしまう状態です。

今回は、万代さん、そして集落支援員の武藤さん同行のもと、じっくり集落内を歩き、まずは何があるのか探すところから始めました。集落で出会う人達や子どもたちに連れられ、みかん畑を探検したり、旅館を営む方のお宅にお邪魔させて頂いたり・・・。偶然に起こる出来事を楽しみ、また、その土地の魅力をどうしたら他の人にも伝えられるだろうと、皆で頭を悩ませました。

【脇谷商店・脇谷誠さん】

離島で商店を営む、脇谷誠さんを訪ね、「愛される商店づくり」を商店の現場で考えました。

「店の品揃えを絞り差別化を図る、などのアイデアはあるが、島に住む人からのそれぞれの要望に応えていくとどうしても品数は多くなってしまう」

「人材が足りない。離島でもキャッチーな仕事にはよそからも人が集まるが、商店のような仕事には人が集まらない」

といった、離島の商店ならではのリアルな課題に直面しました。

参加者の中からは、

「問題解決の難しさを感じた」

「サントリー製品が店頭に並んでいるのを見て、自らの手がけた商品がこれだけ離れた離島にも並んでいるのが嬉しかった」

といった声があがりました。

その後、各班それぞれの体験を発表する時間をとりました。

振り返り

海士五感塾の振り返りを実施しました。
次の２つの質問をペアで投げかけあった後、全体で感じたこと、考えたことのシェアを行いました。

・五感塾で学んだことはなんですか？
・あなたの次の小さな一歩はなんですか？

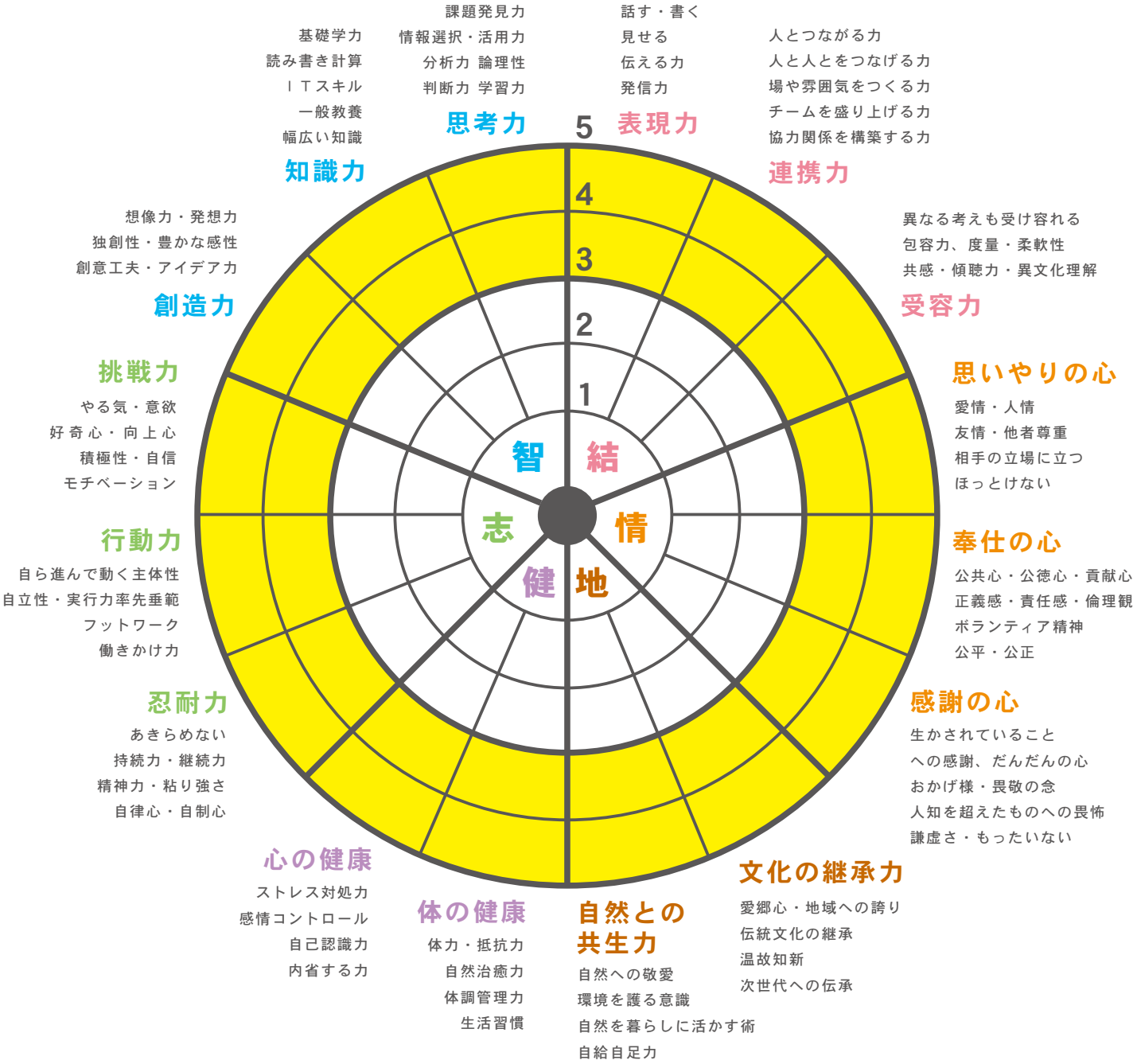
フェリー出航

島の方々にも見送られての出港となりました。またお会いできる日を楽しみにしています。

08

「人間力」自己チェック

5．とても高い
4．まあまあ高い
3．ふつう
2．少し低い
1．とても低い



09

五感塾参加者の感想

全体の満足度（5 段階評価）

「5（大変満足）」4 名
「4（満足）」 2 名

各研修先で感じたこと・気付いたこと・心に残ったことは何ですか？

オリエンテーション・交流会（海士五感塾の趣旨、海士町について、自己紹介、人間力自己チェック）

●人間力の自己チェックを通して、改めて自分が強化したいポイントが見えました。

●初日はあまり「五感塾に来た」感はなかったですが、グループ会社の方との出会いや美味しい空気にわくわくしました。

●自分自身の人間力をチェックすることが、就活以来だったので、まずは自分の今後伸ばしていきたい項目が何かがはっきり分かったことが良かったです。その項目を意識して、今回の五感塾に参加できました。

●人間力チェックのシートは、面白い程、自分の得意不得意がはっきり分かる非常に画期的なシートだと思いました。五感塾以外でも使用できそうな気がします。初日から皆さんと打ち解け合えて非常に有意義でした。

●海士町までの移動時間で疲れていたが、参加者のメンバーに会い、初対面にも関わらずスムーズに会話することが出来、さすがサントリーＧと感じました。

●日本の島は過疎化が進んでいる中、なぜ海士は元気な島なのか期待感をもって参加。夕食の際に感じたのは、島の方々は私たち一人ひとりに興味をもって頂き、本当に親身になって話を聞いてくれることに感動。キンニャモニャの踊りにインパクトを覚える。。。笑

●この研修で、自分は、どう変わっていくのか？ 大きな期待と何をするのか？という気持ちが入り混じったスタートでした。

インタビュー：大江課長（海士の取組み紹介。考動をおこしている海士町のリーダーの志を共有）

●又吉さんの質問から議論が活性化したのが印象に残っています。本音の質問をぶつけるって大切だな・・と思いました。

●大江課長がおっしゃっていたなかで、「楽しいことだから自ずと実行できる」の一言が印象的です。その後お会いした島の方に共通するものを感じました。

●多くの人の挑戦や協力により、海士町が発展していったことが分かりました。一人ひとりが自分のことのように責任感を持って海士町を良くしていこうという意志の強さがあることを知りました。

●仲間への心づかいを怠らないという点が印象的でした。私自身も会社では様々な人とコミュニケーションを取っていますが、積極的に雰囲気を良くするという点で、「自分の行動は素晴らしい事だ！」と自身を持てるようになりました。仲間を想いやる事でチームとして団結し、結果が付いてくる。非常に簡単でシンプルですが、だからこそ忘れがちになります。そこを日々突き詰めていきたいと思います。

●事前に本やテレビ番組を通して勉強してきましたが、直接現地の声しかも先頭に立っている大江課長の話を聞き熱量を感じ、不思議と自分の悩みを恥ずかしながら話してしまいました。動いている方の「熱」を感じることがとても良かったです。

●大江課長からの自分たちの島は自分たちで守るというフレーズが心に大きく残り、本当に島が好きでまた、Iターンされる方々を大歓迎してくれるからこそ人口の減少を食い止めることができていることを実感。

●海士町の躍進の仕掛け人の１人
「あんまり考えないで、常に動いている」「動くには、上司の理解も必要」
印象的な言葉でした。

各研修先で感じたこと・気付いたこと・心に残ったことは何ですか？

ラーニングジャーニー（島内の各所に分かれ、人との出会い、生き方や暮らしに触れる）

●全国から注目を浴びる活動は、そもそも廃校回避や進学率アップなどの生々しい取り組みから生まれていることが予想外でした。

●他のチームの話も聞き、海士町はまだまだ発展途上にいる（と島の皆さんが感じている）ことがわかり、イメージとのギャップを感じました。

●見知らぬ土地で一から陶芸をはじめた勇木さんの挑戦力に驚きました。恩師の方からの「迷ったときは厳しい道を進む」という言葉を今も大切にしながら、自分にストイックに挑戦し続けている姿が、ものづくりのプロとして、憧れを持ちました。

●陶芸家の勇木さん宅・作業場へお邪魔になりました。陶芸家の方とお話する機会はそうそう無いと感じましたので、お話をお伺いしに行きましたが、想像とは違い非常に落ちつき、やさしくお話される方でした。私は日々の業務に追われる傍ら、物事を考える余裕も無いまま過ごす日々でしたが、勇木さんに「本気で向き合う事が自然と考える事に繋がる」と教えて頂きました。急がしさに追われ、真剣に向き合う事を避けてきた私にとって、まさに衝撃的なお話を頂けました。

●陶芸家の勇木さんの所に行かしていただきました。普段では、考え切れない茶碗作りの工程を見させていただきました。息が詰まるほどの緊張感を感じ、勇木さんの熱と決意を聞くことが出来、胸が熱くなりました。

●人口の減少の食い止めはできているが若者の後継者がいないことが非常に大きな課題であることに気づく。本などではすごい島と書かれているが実際に島の方々に直接話を聞くといろいろな課題があることが分かりました。

●農家の向山さん宅
「島には産業が無い、先人が残したものを、次の世代につなげていきたい、という使命感をもっている」
「地域を守ることが、海士町全体を守ることになる」
自分は、何に使命感を持って生きているのか？と、自らに問うてみるきっかけになりました。

夕食交流会（ラーニングジャーニーの行き先の人との交流）

●イタリア料理美味しかったです。離島＝和食という私の既成概念が崩れました。

●美味しいハイボールの作り方を喜んでもらえたのが嬉しかったです。お酒の力を感じました！

●自然豊かで美味しい食材はもちろん、人と人の距離が近く、すぐに仲良く話しかけてくださる温かさを感じ、この人の温かさが、海士町にとって、かけがえのない財産だと思いました。

●島の人は非常にお話が上手だと感じました。それは狭いコミュニティーの中、人々が顔を合わせて話しあうという部分で必然的に上達していくのだと感じました。私も今後様々な場所へ飛び込み経験を積み重ねていきたいです。

●料理は、とてもおいしく都会にいるのかと感じれるくらい素敵な時間でした。カラオケでドスベッたことが心残りです（笑）。

●改めて海士の方々の気持ちは熱いということを実感でき自分自身気づいたら島の住民になった感覚になっていました。

●地域を通じて、海士町全体のことを皆さんが、考えられていて「人のつながり」を、熱く感じました。

各研修先で感じたこと・気付いたこと・心に残ったことは何ですか？

地域の取組み（課題）に携わる（島の人の現場に訪れ、その人の課題に共に挑戦する）

●ものごとをとても広く高い視野から捉えている方で、島の事情から数年後の日本や世界の話まで意見をお話してくださり、時間があっという間でした。「違う角度でみてみる」「疑ってかかってみる」というのは私の苦手分野なので、すごく刺激になりました。

●商店を営む脇谷さんが、5年、10年先のことまで少し考えながら、お店に置く商品を選んでいることに驚くと共に、法律の改正や世界情勢に、もっと目を配りながら先読みをした業務をしていかないといけないと、改めて考えさせられました。

●脇谷商店の脇谷さんの商店へお邪魔させて頂きました。財政破綻寸前から回復に成功したイメージの島とばかり思っていましたが、脇谷さん曰く実はまだ解決しないといけない内容が山積だという事でした。脇谷さんは何でも物事の成功事例ばかりをみてはいけない、成功の影にいくつの失敗をしていたか、さらに現状抱えている問題はないのか等、客観的に物事を見るべきだと教えてくれました。民間と行政の間にまだ壁はある。その壁をどう乗り越えていくかも今後の海士町の課題という事も教えて頂きました。課題解決というゴールには辿りつけませんでしたが、非常に有意義な時間を頂けました。

●万代さんの地域に参加しました。まさかの婦人会に参加だったり、みかん狩りだったり、旅館でのティータイム、地元の子供との交流。人との出会いのすばらしさを感じました。「地元にお金を落とすには」というテーマで意見交換を通して本やテレビでは知ることの出来ないリアルな現実を感じました。沖縄在住という立場から話が出来ました。

●流通など島独自の課題とその対処法について共有できた。現代は買い物もネットで実施できるため付加価値のついた売場作りなどが重要ということがわかりました。

●さくらの家　本多さん
「ふくぎ茶」を、ロングセラーにしたい、リピーターを増やしたい。キャッチコピーを考え、現地の情報を伝えるため「冊子」を使う。「冊子」と「ふくぎ茶の枝」を入れる案、たぶん採用されると思います。本多さんの熱い思いが、私たちに波及して、いい案が出ました。向き合って話をすることの大切さが、よくわかりました。

振り返り（学んだことの振り返り、日常にどのように活かすのか思考する）

●感じたことが多すぎて、とても纏まりきらなかったです。ぼやっとしていることも全て、一過性の気づきにならないよう３ヵ月後の自分への手紙に書き残しておきました。あの手紙があってよかったです。

●開発部署にいるので、先予みした新価値提案をできるように頑張りたいです。ものづくりのプロとしての意識をもっと持って、業務に取りかかりたいです。

●島の方からもたくさんのお話を頂けましたが、今回参加したメンバーとの交流も非常に意義のあるものだと感じました。会社にこもり、家庭にこもりでは何も自分自身開けるものは無いという事も痛感させて頂きましたし、簡単な事でも真剣に向き合う事で、考える力もどんどん養われていくのだと思いました。

●普段言わない自分の気持ちを何度も言える３日間でした。言葉に出すことは良いことなんだなと感じました。

●自分の思いを熱意をもって相手（社内、社外）に伝えることで課題を導くことができ成功に繋がるということ。

●動きつづけるためには、使命感をもって、真剣に人と向き合っていこうと思います。

全般（司会進行、宿泊施設など）

●２日目朝のオリエンテーションで、「感覚・感情・論理」のお話を伺ったのがよかったです。時間も限られているなか、まずは小難しく考えずしっかり五感で感じようと、頭を切り替えられました。

●ご飯が美味しく、宿泊施設の奥様の歌声に、元気をもらいました。

●全く問題ありませんでした。非常に過ごし易くさせて頂き、非日常を感じられた素晴らしい研修でした。

●とてもすばらしかったです。楽しかったです！！！！！

●最初から最後まで本当にいろいろと段取り頂きありがとうございました。個人的には、行きの電車が止まってしまった時に本当に助けて頂きました。

●民宿　但馬屋さん、おいしくて、楽しく過ごせました。

研修を終えて

「海士五感塾」で過ごした 2 泊 3 日を振り返って、あなたが得られたことは何ですか？

●海士町の方や参加者の皆さんと話し、関わっていく中で、予想もしなかったような気づきが生まれました。頭のなかの普段使っていない部分が動きだしたように感じて、とても心地よかったです。色々な考え方に触れる面白さや、それに対して自分はどう感じるのか言葉にして会話していくことの面白さも感じました。

●自分の悩んでいることが明確になった。目標達成への意気込みが強くなりました。

●もっと多くの島民の方とお話をさせて頂きたかったと思います。とにかく様々な方と対話をする。改めて今の私が成長する為に必要な考動だと思います。

●研修に入る前に、出来る限り発言しようと決めていました。積極的に参加できたとおもいます。阿部さんから聞いた「横を見るな、上を見ろ」がかなり響いています。

●物事をはっきり相手に伝えることの重要性。

●向き合う→使命感→動く、このサイクルを回していきます。

五感塾で得たもの、学んだことを、日常（仕事やプライベート）にどのように活かしていきますか？

●新しい経験に、仕事でもプライベートでも積極的に飛び込みたいと思います。いろいろ経験するなかで、今回の五感塾で感じたことが、より自分の考動に定着するような気がしています。

●自分自身の中で、常に 1 つ上の目標を掲げて実行しようという意識を持つようにしました。

●日々ルーティンで行う業務に流され、考える暇も無かったですが、考えないからこそ、今後の自分の行き先に不安を感じるのだと思いました。陶芸の勇木さんも保証された職業ではないですが、陶芸に真剣に向き合う事で、結果目標も見えてくるともお話されていました。今後はできるかぎゆっくり時間をとり、真剣に向かいあう時間を長く設定していきたいと思いました。

●これからは自信をもって働いていく。

●集団の中で状況把握してその場の最善の策は何かを常に考え考動する。

●自分の中の、向き合うものを洗い出し（仕事も、PV も）、気持ちを、使命感に変え動いていきます。

全体で特に印象に残っているプログラム（言葉・場面）は何ですか？

●所々で「サントリーさんは」と言われたこと。会社を離れて過ごすつもりで参加した五感塾ですが、ここで得たものは仕事にも還元しなくてはいけないなと思いました。

●３日目の「動」のプログラムは、海士町の皆さんと深く関わることができ、ここまで来て本当によかったと思いました。海士町の現実も自分の目や耳で感じることができ、いろいろと考えさせられました。

●やるからには、１つ上の目標を掲げて実行する。迷ったときには厳しい道を進む。

●全てにおいて新鮮で、多くの場面で印象に残っていますが、一番は離島する際のお見送りのテープです。あれは相当インパクトありました。また体験させて頂きたいです。

●最終日の万代さんの地域での意見交換。横を見るな上を見ろ。

●大江課長の【自分たちの島は自分たちで守る】。

●農家の向山さんが言われた「島には産業が無い、先人が残したものを、次の世代につなげていきたい、という使命感をもっている」

お問い合わせ先

株式会社 巡の環（めぐりのわ）

担当；岡部 有美子

住所：〒684-0403 島根県隠岐郡海士町大字海士 1700-2

電話番号・FAX：08514-2-1966

E-mail：info@megurinowa.jp